

# 2006年度「学生による授業アンケート」結果報告

2006年度 自己点検・評価委員会  
委員長 宮坂 覺

フェリス女学院大学では、2004年度より全学的に学生による授業アンケートを実施し、2005年度からは組織的な授業改善の基礎資料として集計結果に関する統計資料を作成し、大学公式サイトを通じてこれらの結果及び大学としての取組について公表してきました。

今回、2006年度の学生による授業アンケートについて、その集計結果を掲載すると共に、これを受けた大学としての具体的な取組状況についてもお知らせします。

## 1. 2006年度「学生による授業アンケート」実施概要及び集計方法について

### 【実施概要】

#### 前期

＜実施期間＞2006年6月30日（金）～7月24日（月）

＜実施科目数＞308科目

（基礎教養・総合課題科目：57、初習外国語科目：47、英文学科専門科目：37、日本文学科専門科目：46、コミュニケーション学科専門科目：29、文学部共通科目：6、音楽学部専門科目：63、教職科目：14、留学生科目：9）

#### 後期

＜実施期間＞2006年12月11日（月）～2007年1月22日（月）

＜実施科目数＞270科目

（基礎教養・総合課題科目：48、英文学科専門科目：28、日本文学科専門科目：36、コミュニケーション学科専門科目：26、文学部共通科目：4、国際交流学科専門科目：50、音楽学部専門科目：56、教職科目：12、留学生科目：10）

### 【実施方法】

アンケートは無記名式とし、その趣旨から担当教員が直接配布や回収を行うことは避け、取りまとめの学生を指名し、指名された学生が代表としてアンケートの配布・回収を行い、所定の提出場所に提出する。

### 【集計方法】

設問は、選択式（OCR）と記述式からなり、選択式（OCR）は、共通設問の（1）～（22）と、担当教員が独自に内容を設定する（23）～（26）に分かれています。今回の集計に際しては、選択式（OCR）の（22）までを対象とし、さらに、共通の設問のうち（1）と（2）については、それぞれ「この授業を履修する際に参考にしたものは何ですか」「この授業を受講した理由は何ですか」という、どのようにその授業を選択したかを問う内容なので、集計対象外としました。

記述式は（27）「この授業で良かった点を書いて下さい」、（28）「この授業で改善してほしい点を書い

て下さい」、(29)「この授業で扱ってほしい内容について書いて下さい」という3つの共通設問と担当教員が独自に内容を設定できる設問1つで構成されています。

選択式(OCR)については、各設問に対して、A(とてもそう思う)、B(ややそう思う)、C(どちらともいえない)、D(あまりそう思わない)、E(まったくそう思わない)の5つ選択肢の中から、該当する1つを選択する形式となっています。2つ以上選択した場合、何も選択されていない場合には無効回答として処理され集計の対象からは除外されます。これらのA~Eの選択肢に対して、A=5、B=4、C=3、D=2、E=1のポイントを乗じ、各設問における合計ポイントを有効回答数で除した数値(小数点第三位を四捨五入)を評定平均値としています。(3)~(22)までの各設問の内容及び評定平均値についてはグラフをご覧ください。

なお、担当教員には、選択式(OCR)のすべての数値化された集計結果をデータ化して、記述式回答と共にフィードバックしています。

## 2. 2006年度集計結果について

2006年度前期・後期アンケート結果として、大学全体の平均値では、授業内容に関わる20の設問のうち、その8割にあたる16の設問において、過去4回の授業アンケートの中での最高値となりました。また、そのうちの15項目で2005年度前期の統計資料作成時点から、すべて前セメスターの数値を上回っており、残りの4つの設問についても大きな数値の変動はないことから、全体として本学学生の授業に対する満足度は向上しているものといえます。

また、2005年度に課題としてあげられた、授業外学習に関する2つの設問「この授業のために予習や復習をした」「この授業の内容について自分自身で学習するための方法が説明された」について、それぞれの数値の変化は次のとおりです。

	2005年度		2006年度	
	前期	後期	前期	後期
設問(5) この授業のために予習や復習をした。	2.94	3.03	3.20	3.11
設問(16) この授業の内容について自分自身で学習するための方法が説明された。	3.60	3.74	3.80	3.88

数値の推移から、両項目ともに改善の方向であるものの、他項目との比較において依然として相対的に低い数値となっており、さらなる問題点の検証及び具体的対応が必要であると考えています。この点を含めて、今後、授業アンケートの目的である授業改善に向けて取り組んで行くためには、大学全体のFD活動を専門的に検討する機関が必要不可欠との判断により、2007年度から大学FD委員会(詳細は後述)が設置されることとなりました。このことを含めた次年度からの具体的な取組については、次の「3. 今後に向けた取組について」に記載します。

### 3. 今後に向けた取組について

これまでの授業アンケート実施の経験を踏まえて、実施方法の改善等に関する討議を重ね、2007年度に向けて具体的に次の取組を実施することとしました。

#### ① 大学FD委員会の設置

これまでのアンケート結果の傾向、さらに授業改善を組織的な動きとしていくために、大学FD委員会を発足させ、授業アンケートを含めたFD活動全般に大学全体として組織的に取り組んでいく体制を発足させました。

#### ② 原則として全科目でアンケートを実施

従来、アンケートを実施するかどうかの最終的な判断は、各科目所管委員会に委ねられ、場合によっては、前期のみ、後期のみの実施や教員一人につき一科目といった形で実施されるケースがありましたが、全学で統一した形で実施することが必要との判断から、原則として全科目でのアンケートを実施することとしました。ただし、科目の性格上アンケート形式での調査が難しい授業は除外します。

#### ③ アンケート設問内容の修正

設問内容については、全学的な実施から3年が経過し、これまでの経験を踏まえて、設問内容の見直しを実施しました。解釈がわかれてしまう可能性のある表現を改め、調査の要求が高かった項目等を追加するほか、より実質的な授業改善につながるような設問内容に修正しました。また、アンケートに答える学生の負担や、授業時間内に実施していることも考慮して、できるだけ設問を絞ることに努めています。

#### ④ 演習科目でのアンケート実施

これまでの対象科目は文学部を除き、講義科目のみに限定されてきましたが、演習科目でもアンケート実施が必要との結論に至り、実施対象を拡大することとしました。

以上

# 授業アンケート(2005年度前期～2006年度後期) 評定平均推移

